



第19図 硫黄島における風の鉛直時間断面, 1960年8月5~20日, 風速は第14図と同じ。

それぞれの圈内または影きよう下にあつて、特にベンガリ湾のような組織的な easterly jet は見られない。

これらを総合すると1960年8月の台風の発生については平年と異つて南西季節風が大きな役割を持ち、これが ICT に達して収束を強めて、熱帯性のうずを発生発達させたものと考えられる。

#### 文 献

1) 陶詩言 Dao Shih-Yen, 陳隆勳 Chen Lung-Shun (1957): 夏季亞州大陸上空大氣環流的結構, 氣象學報, 第28卷第3期(1957年8月)または The Structure of General Circulation over Continent of Asia in Summer, 75th Anniversary Volume of the Journal of the Meteorological Society of Iapan, Nov. 1957 pp. 215~229.

2) B.W. Thompson(1951): An essay on the general circulation of the atmosphere over South-East Asia and the West Pacific, Quart. J.R. Met. Soc., 77 569~597.  
 3) H. Riehl(1954): Tropical Meteorology, 16~17.  
 4) 田辺三郎 (1960): 偏東風波動について, 天気 7, 231~235.  
 5) P. Koteswaram and C.A. George(1958): On the Formation of Monsoon Depressions in the Bay of Bengal, Indian Jour. Met. and Geophy., 9, 9~22.  
 6) A. Gilchrist(1955): Winds between 300 and 100mb in the tropics and subtropics, Meteor. Rep. No. 16, Meteor. Off., London.  
 7) 前掲 4)  
 8) P. Koteswaram (1958): The Easterly Jet Stream in the Tropics, Tellus 10, 43~57.

#### ◇ 論文募集についてのお知らせ ◇

気象学会の学術交流委員会は、これまで中国との交流について種々積極的な働きをしてまいりましたことは、『天気』誌上その他で、すでに報告されております。計画されました交流策の一つとして、『天気』誌上において梅雨、農業気象などのテーマで中国側と誌上討論することが考えられております。当委員会といたしましては天気編集委員諸氏と相談の上、その線にそつた試みの第1回目として、この夏の月例会で行われました梅雨についての問題を Vol. 9. No. 1に集録いたす予定です。

これを一つのきっかけといたしまして、梅雨について

の研究を一般の会員からも公募し、さらに討議を深めてゆきたいと思ひますので、この問題に関心をよせられる方は次の要領で投稿をおねがい致します。

- 1 内 容 中国側ととくに討議をしてみたいと思はれる梅雨についての問題点、一般の討議にゆだねるような梅雨型天気モデル等。
- 2 論文の長さ 400字×10枚以内程度(図1~2葉)
- 3 切 り 1961年~3月末日

学術交流委員会